

災救通信

平成31年
3月1日
第17号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

本部隊長会議

平成31年2月25日 本部教庁地下会議室に於いて、立教181年度下半期隊長会議が行われた。田中勇文本部長より「昨年夏頃より全国で災害が多発し、隊の重要性を教内外で認識を深めている。新聞社や専門家からも取材を受けることも増えている。何よりも、災害が起きないように日々のきしん活動につとめ、来年度も足並み揃えて活動に取り組みたい。」とあいさつがあり、立教182年度活動方針が発表された。

続いて下半期活動報告、次年度行事予定が発表され、更に続いて教区訓練報告として、香川教区隊、神奈川教区隊より報告があった。香川教区北嶋隊長は、「毎年、訓練地を確保することや、訓練地での生活、宿営など大変なことも多い。今年度は、過去の記録をもとに自治体に再交渉してみたところ、過去に訓練した公園での活動が評価され、今年度の訓練に結びついた。訓練を通してのつながりは重要である。」と述べた。また、神奈川教区佐々木隊長は、「現在神奈川は大規模な災害が起きていない状況であるが、有事に備え大規模災害被

害状況伝達訓練を行ったり、大規模災害が起きた教区の隊長に、災害出動の様子などを2つ教区隊長に話してもらい、有事に備えた意志の確認を行っている。」と発表があり会議を終えた。なお、会議終了後には5月末に行われる「東北・北海道ブロック訓練」の担当者会議が持たれた。

立教182年度活動方針

「一手一つの活動を通じた地域ひのきしんの推進と隊の充実」

災害の無いご守護をいただくことが出来るよう、常に地域でのひのきしんの中核となつてつとめるなかに、いざという時の出動に備え、災救援隊結成50周年にむけての隊の充実を図る。

1. 活動の基盤となるちばへの伏せ込み
2. 次代を担う隊員の育成と増員を図る
3. 実動を見据えた訓練の充実と行政との連携を図る

冬季平時訓練

小樽支部

小樽支部隊（久米田忠彦隊長）では2月19日、小樽市社協より要請のあった住宅3軒の除排雪ひのきしんを実施。作業に先立ち天理教館の雪庇落としを行った。参加者は今年も、住人の方々に喜んで頂こうと心掛け、丁寧に綺麗に除雪を行った。そうした思いが伝わってか、喜びの声を頂き共々に勇む事が出来た。今年の参加者は7名。



丁寧に心を込めて除雪する。

宣誓
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

天龍支部

天龍支部隊（田中直人隊長）では2月19日、20日1泊2日の日程で、深川市にある雨龍大教会を拠点として、恒例の冬季平時訓練を実施した。午前9時には結隊式を行い、あいさつや作業説明等を済ませ、早速隊員達は現場へと向かった。今年も深川市社会福祉協議会から要請のあった住宅を中心に、物置や車庫、また、支部内教会の除排雪、屋根の雪降ろしなどを行った。

同支部では毎年、夏にも訓練として留萌市内の特別養護老人ホーム 萌寿園での草刈りを行



除排雪の手を休め、記録写真を。いい天気です。

っている。昨年の胆振東部地震を経験し、いつ何時に災害が起こりうるかも知れないという認識の下、今年是一段と有事に備えて支部内が一手ひとつになって、真剣に訓練に取り組むことが出来た。

資材として、スコップやスノーダンプ、はしごはもちろんのこと、軽トラ、2トンダンプ、除雪機（スロワー）、タイヤショベルを使用し住宅1軒、住宅物置2軒、教会1軒、車庫1棟の作業を行い、訓練を終えた。夕食などは婦人会のひのきしんをお願いし、訓練参加者はのべ21名（婦人会を含む）となった。

富良野支部

富良野支部隊（中村孝典隊長）は2月16日上富良野町に於いて、訓練を実施した。作業開始前には上富良野分教会にて打合せ、点呼を行い、同町社会福祉協議会から依頼のあった独居老人宅2軒へと出動した。作業内容は住宅屋根や物置小屋の雪降ろしと排雪を行った。作業資材はマンパワー全開のスコップ、ハンマー、つるはし、スノーダンプをはじめ、安全帯やロープ、はしご、軽トラック等も準備した。一方でこうした隊員持ち込み資材のチェックや、現場指揮や交通誘導などの役割をどうするか、また、暖気時の作業を実行するかの判断など反省点も出された。

また、社会貢献の要素が大きいこうした活動は、これからもぜひ続けて行くべきという意見もあったり、社協の方からも継続しての

活動はありがたいと感想を述べてくれた。今回は参加隊員も少なく課題もあるが、地域でのひのきしん活動に勇むことが出来た。5名が参加。



雪が降る中、屋根の上での作業を行う。

東北・北海道

ブロック訓練

5月28日出発

6月1日帰道

支部隊長または副隊長